

## 衣類ゴミをウエスに

## 再利用でSDGS活動

岩手県盛岡市の川上塗装工業(代表取締役・川上秀郎)は5月10日

から、一般家庭から出たボロ布を福祉作業所で裁断加工し、ウエスとして使用する「リンクアツプウエス活動」を開始した。廃棄予定の布を



作業所で布を裁断



ウエスとして再利用

たとのこと。

この活動を始めたきっかけについて川上冨華専務は、衣類の約74%が焼却・埋立て処分され、再利用されていない現状を知ったからと説明。さらにインドの綿農家では、綿量産のために使用した殺虫剤により、土地のやせ衰えや借金苦による自殺が多発、親を亡くした子どもたちが児童労働を余儀なくされている現状を聞き、何か力になれないかと考えたという。

再利用するだけでなく、家庭からTシャツやタオルなど綿素材の不要な布を回収。仕分けをした上で盛岡市内の福祉作業所に搬入し、障がい者に裁

3月から約2カ月間、不要な布の提供を呼び掛けたところ、これまでに100kg近くの寄付があった。同社ではこれま

今後はさらに広く布の寄付を募ることで、そ

同活動ではまず、近隣の配布する塗装工事の広告を通じて活動への参加を呼び掛け、一般

断の仕事に依頼する。一定の大きさに切られた布は塗装の作業現場でウエスとして使われる。一方で資材メーカーから作業用ウエスを購入していたが、それよりも安い費用で調達できるようになっ

の販売収益を綿農家救済のためのプロジェクトに寄付できればと話している。